

平成29年度児童生徒の活用力向上研究指定事業実施計画（2年次）

神崎市立千代田中学校

校長 糸山 和男 印

1 研究テーマ

生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業実践  
～活用力を高める主体的・対話的で深い学びを通して～

2 研究テーマ設定の趣旨（背景、現状等）

千代田中学校校区は、校区内に各学年1～2学級の小学校3校と中学校1校を有する地区である。”水と緑と次郎の里 ちよだ”とのフレーズがあるように、豊かな自然環境と下村湖人先生の教えが脈々と息づく中、児童生徒は純朴で人情こまやか、また、まじめで勤労もいとわず、落ち着いて学校生活を送っている。学習面では授業態度も良く、与えられた課題に取り組むことができている。

反面、失敗を恐れるあまり自分のよさを発揮できないなど自己肯定・有用感が低く、自分の考えや思いを表現・伝達・説明したり、自ら構想を立て実践・評価・改善・発展させたりすることが苦手である。学習・学力面においても、思考・判断・表現する場面での消極的な活動が見られ、諸調査での記述問題や活用問題での県到達基準比の低さなどにもつながっている。

昨年度12月の佐賀県学習状況調査の実態は、教科全体県正答率比では1年理科・英語で下回り、活用に関する問題における県正答率比でも1年理科・英語が下回った。また、教科全体到達基準比では1・2年とも社会・数学・理科の6教科で十分達成を下回り、活用に関する問題における到達基準比では1・2年の数学・理科の4教科で十分達成より下回っている。

そこで、本校では、全教科の授業において、活用力を高めるために「学習課題」を明確にし、「C-time」を設定することで、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践に取り組むこととした。特に今年度はC-timeの位置づけを「振り返り」から「視野を広げる時間」とし、深い学びになるようにする。また、タブレットが全学年使用できる環境となったのでICT利活用を進めたり、一人一人が自分のよさを発揮し、互いによさを認め、共によさを高めたりする学校環境の整備に努めることとした。これらの取り組みにより生徒の思考力・判断力・表現力を育み、主体的な生徒に育てたい。

3 取り組むテーマの成果指標及び目標

(1) 平成29年度

成 果 指 標	<p><b>【全指定校の共通指標】</b></p> <p>① 同一生徒における、各教科の平均正答率の到達基準（十分達成）に対する比</p> <p><input type="checkbox"/>中学校2年 : 実施教科（5科目） （H28年12月調査【中1時】とH29年12月調査の比較）</p> <p>②同一生徒における、「活用」問題の平均正答率の到達基準（十分達成）に対する比</p> <p><input type="checkbox"/>中学校1年・2年 : 国語、数学</p>
---------	--

(H29年4月調査と12月調査の比較)

**【各指定校の独自指標】**

- ③ 普段の授業で授業の目標が示しているという生徒の割合
- ④ 普段の授業で振り返りの活動を行っているという生徒の割合
- ⑤ 普段の授業で話し合う活動を行っているという生徒の割合【中学校区内共通】
- ⑥ 活用問題無回答率の県との差を、12月調査で、4月調査比で1P広げる。
- ⑦ 定期テストでの活用問題を昨年度より多く出題し、分析する。
- ⑧ 学級活動、学年活動、学校行事等の活動で、自ら関わろうとしている生徒の割合

**【共通指標の目標】**

① 【中学2年生】

教科名	現状 H28年12月	⇒	目標 H29年12月	⇒	結果 H29年12月
国語	1.02	⇒	1.04	⇒	
社会	0.86	⇒	0.88	⇒	
数学	0.86	⇒	0.88	⇒	
理科	0.70	⇒	0.72	⇒	
英語	0.98	⇒	1.00	⇒	

② 【中学1年生】

教科名	現状 H29年4月	⇒	目標 H29年12月	⇒	結果 H29年12月
国語	0.42	⇒	0.44	⇒	
数学	0.64	⇒	0.66	⇒	

② 【中学2年生】

教科名	現状 H29年4月	⇒	目標 H29年12月	⇒	結果 H29年12月
国語	0.94	⇒	0.96	⇒	
数学	0.48	⇒	0.50	⇒	

**【独自指標の目標】**

③ 「肯定的」回答の割合（生徒）

(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)  
97% 100%

④ 「肯定的」回答の割合（生徒）

(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)  
66% 85%

⑤ 「肯定的」回答の割合（生徒）

(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)  
93% 100%

⑥ 1・2年国語・数学の無回答率の（県一本校）との差（生徒）

成果指標の目標

	<p>(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)</p> <p>1国 -0.3P ⇒ +0.7P</p> <p>1数 +0.5P ⇒ +1.5P</p> <p>2国 +1.8P ⇒ +2.8P</p> <p>2数 +0.6P ⇒ +1.6P</p> <p>⑦「肯定的」回答の割合(職員)</p> <p>(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)</p> <p>89% ⇒ 100%</p> <p>⑧「肯定的」回答の割合(生徒)</p> <p>(現状) ⇒ (目標) ⇒ (結果)</p> <p>76% ⇒ 85%</p>
目標達成のための取組	<p>① 授業だけでなく宿題と家庭学習を確実にを行い、生活習慣を確立させて基礎基本の習得を図る。</p> <p>② 全教科で、主体的・対話的で深い学びの授業実践・改善を図る。</p> <p>③④⑤ 全教科で学習課題、ペア・グループ活動の交流時間、まとめ、振り返りの時間を捉えて、共通の授業の流れを意識し、授業の充実を図る。</p> <p>⑥⑦ 定期テスト終了後の授業で、活用問題の解説を行う。</p> <p>⑧ 総合・学活・生徒会・係活動において、自分にふさわしい目標や目あてを決めて取り組ませる。</p>

#### 4 事業期間

平成29年5月 ～ 平成30年3月

#### 5 実施・研究内容

##### (1) 協議・検討のための会議等の設置

主な構成等	人員数	開催予定回数
○活用力向上に係る小中連携研究推進委員会 校区内：(校長、教頭)、(研究主任、学力向上C)	2名×4校	3回
○研究推進委員会(校長、教頭、教務兼研究主任、各部会長)	5名	15回
○校内研究会各部会		
①授業づくり部会	9名	10回
②学習環境部会	9名	10回

##### (2) 予定している主な調査・研究活動

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「習得・活用・探究」活動、「活用力を高める授業」研究、主体的・対話的で深い学び等に関する共通理解研修</li> <li>・全国調査の「B問題」や県調査の「活用に関する問題」の内容分析</li> <li>・各校、各部会における研究の柱・内容・実践の提案・検討</li> <li>・小中連携による取り組みの提案・検討</li> <li>・活用力を高める研究授業公開(全教科：3回×3教科)</li> <li>・児童生徒の実態調査・分析</li> </ul>
--

##### (3) その他、当事業において実施する事項

- ・授業公開及び研究協議会の開催
- ・活用力向上に関する取り組みを、学校HPで紹介

## 6 教育事務所、佐賀大学、教育センター等の活用計画

### (1) 平成29年度

	実施時期 ( 月頃)	協力要請先 支援要請先	協力要請及び支援要請の内容【研修対象】
平成 29 年 度	6月	教育事務所	授業研究会【中】
	6月	市教委	活用力の向上の取り組み【小中】
	8月	教育センター	学習状況調査分析【中】
	10月	教育事務所	授業研究会【中】
	11月	教育事務所	授業研究会【中】
	2月	市教委	今年度の取り組み【小中】
	2月	教育事務所	次年度に向けて【中】

### 7 期待される効果

- 全職員で、児童生徒の活用力の向上をめざし、思考力・判断力・表現力を育む学習活動を設定し、授業の工夫・改善を図ることで、
  - ・職員の指導力の向上が期待できる。
  - ・児童生徒の全国及び県調査での「活用」に関する問題の正答率の向上や無回答率の減少が期待できる。
- 小・中学校で連携した実践に取り組むことによって、義務教育9か年を見通した教育実践が可能となる。学習スタイルも連携することで校種間の垣根が低くなり、千代田中校区の児童生徒の学習に対する意識が高まり、「中1ギャップ」改善を期待できる。